

2月11日関東老日中クラブ出席報告 見本重宏

日中協会白西理事長より老日中クラブの存在を知り、新橋駅近くの中華料理「維新號銀座新館」で開催された春節会にご一緒させて頂きました。時代の激流の中で、夫々友好活動に参加し、年を重ねる中で日中老戦士（多くは現役）が1回/年集まり語り合う会の様です。関西でも定期的に開催していたが、池田日中の藤尾会長が亡くなり、旗振り役がおらず休会中との事。

会場には中国大使館友好交流部書記官含め、戦中戦後から日中友好活動に参加された方約30名の諸先輩が出席されていました。突如出席した私を暖かく迎えて頂きました。

私は白西氏以外とは初対面であり色々話を伺う中、日本華僑華人連合会会長、東京華僑総会会長、日中科学技術文化センター、21世紀社会動態研究所等各種団体の重鎮・創世期の方々である事を草創たる方々が出席されていることを始めて知りました。また、唯一「DVD 櫻花櫻花」で名前は知っていた日本籍老戦士小林寛澄氏(97歳)も元気に参加されていました。

戦後70年を振り返り、出席者の方々ほぼ全員が、指名を受け発言をされました。経歴も含め、非常に内容の深い見識の高さを覗う話が多く、勉強になりました。隣席の韓慶愈氏名刺交換しましたが、その時は「どこかで聞いた名前だな」程度しか分からなかった。

数日後、何となく方正友好交流の会報「星火方正」を開いた時、「日本に残留し定住した中国人」(在日華僑・韓慶愈が生きた昭和史)の記事が飛び込んで来た時はビックリしました。戦中国費留学し、日中戦争・終戦・戦後の昭和史の連載記事を読み、感動を覚えて人が隣の方だった。また、会の事務局が日中科学技術文化センター内にある事で確証を得ました。

関西日中平和友好会の説明の機会も与えて頂き、2007年新しい出発を合言葉に改革を行い「友好と利益の共有」「相互依存関係の構築」「世代継承」の取り組みを説明しました。当日持っていた会報や村田学長講演会のチラシも配布しました。会報を見た人より「関東日中とは懇意にしており、関西は活発と聞いていたが会報を見て納得した」とのお褒めの言葉も頂いた事を報告いたします。

